

## 南小泉あたり ～地域に眠る記憶をたどって

若林区中央市民センター  
村上 佳子



昨年4月、太白図書館から若林区中央市民センターに勤務先がかわりました。

震災の被害が大きかった地区の公民館として、微力ながら地域のまちづくりにかかわる仕事に取り組んでいます。

当市民センターが建つのは、仙台市の若林区役所に隣接する南小泉地区で、かつては仙台市養種園があったところ。敷地内には農業用水としても利用される七郷堀の豊かな水流があり、記念樹木なども植えられています。四季折々の景色を楽しめるふるさと広場として親しまれるとともに、広場の東隣には下水ポンプ場などもあり、私たちの暮らしを支える重要な機能をもつ地域でもあります。

養種園は、明治33年、仙台藩祖伊達政宗から十五代にあたる伊達邦宗公により、伊達家の直営農場として創設されました。各種の野菜や果樹などの優良種子を育て、農業振興に大きな業績を残しています。特に、農業関係者の間で知られているのは、「仙台白菜」の採種です。白菜は、鍋物や漬物、キムチなど、冬の食卓に定番の野菜ですが、明治期にはとても珍しいものだったようで、日清日露の戦争を経て中国から伝えられたといわれています。

司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の一節（日露戦争で旅順の二百三高地を攻めた陸軍の総司令官・大山巖が語った部分）にも白菜が登場し、その伝来を取上げる時によく引用されています。

「総司令官というのはわりあいひまなものでございますから、田舎を散歩いたします。（中略）そしてもっぱら、シナの白菜というものの研究を致しており

ます。

あの白菜というものは大した野菜でござって、滋養も盛んでござって使い道も多うございます。とくに漬け物にすればよろしゅうござって、しかしその技術がなかなかむずかしゅうござって……」



市民センターで収穫した白菜

確かに中国から持ち帰った最初の種からはちゃんとした白菜がとれるのですが、その白菜から採った種では丸く結球する白菜にはならなかったようです。仙台の養種園では幾多の改良研究をかさね、大正3年に「仙台白菜」といわれる優良品種を誕生させました。白菜はアブラナ科の植物で、カブやコマツナなどと同じです。そのため、広く作付けされていた同属の葉物野菜との交雑が、結球できない原因ということも分かってきます。その後、松島湾の離島で隔離して白菜を栽培し、種を採る手法も確立されました。現在も松島湾の浦戸諸島では、新たな品種の開発が進められ、良質な種を市場に供給しています。仙台で暮らし、農家にも縁が深い私ですが、そんな地域の話もこちらに来て改めて知りました。当市民

.....

センターでもこの養種園のゆかりにちなみ、近隣の農家の方にご協力をいただいて「仙台白菜」を育てる講座を開催しています。

南小泉といえば、真山青果（まやま せいか）の小説「南小泉村」があります。

「百姓ほどもじめなものは無い、取分け奥州の小百姓はそれが酷い、襤褸を着てかて飯を食って、子供ばかりを生んで居る。丁度、その土壁のように泥黒い、汚い、光ない生涯を送っている。地を這う爬虫の一生、塵埃を嘗めて生きて居るのにも譬えふれば譬えられる。……」

と始まるこの作品が発表されたのは明治40年、自然主義文学の最盛期だった当事、なかなかの評判をよびました。

青果は、明治11年、仙台市の中心部に近い裏五番町に生まれ、父は元士族の教育者でした。医学専門学校（東北大学医学部の前身）に進んだものの医者になる気にはなれず、泉鏡花に傾倒するなど文学への関心を高め、やがて退学してしまいます。それでも、この南小泉で診療所の代診医を勤めていた時期があり、その体験にもとづいた小説が「南小泉村」です。タイトルからすれば、もう少し地元馴染みがあってもよいのですが、何しろ冒頭の一節からも伺えるように、その農民たちの暮らしぶりを辛らつにいささかの同情もなく描写していますので、今もかなりの抵抗があります。現在も図書館の文学全集などで読むことができますが、青果を小説家として知る人は少なくなりました。後に劇作家として活躍し「元禄忠臣蔵」など広く知られる作品も残

していますが、それが仙台出身の真山青果の作であることを知る人は少ないのではないのでしょうか。

七郷堀に沿ったふるさと広場の一角に真山青果の文学碑が建てられていますが、碑文は「南小泉村」ではなく、戯曲「頼山陽」から引用されています。江戸後期の思想家・頼山陽は、若い頃に脱藩を企てたものの連れ戻されて広島の実家に幽閉、悶々と思案の日々を送った時期があります。やはり若い日の一時期を、不本意のうちに過ごした青果の姿を反映させているのでしょうか。

「羽虫は  
何故かは  
知らんだらう  
それでも  
飛ばずに  
ゐられないのだよ」



真山青果の文学碑

今回は、あまり馴染みのない内容になってしまいましたが、南小泉地域にまつわる話題をご紹介します。